

通し番号	4921
------	------

分類番号	30-34-16-02
------	-------------

マンゼブ水和剤散布と1月以降の遮光ネットによる樹全体被覆の組み合わせにより‘湘南ゴールド’のさび果発生が低減されます

[要約] 慣行防除に加えて9月下旬から10月上旬にマンゼブ水和剤を散布し、1月中旬以降の防鳥に用いるネットの代わりに60%遮光ネットを用いて樹体全体を被覆することで、‘湘南ゴールド’のさび果発生を低減できる。

神奈川県農業技術センター・足柄地区事務所

連絡先 0465-29-0506

#### [背景・ねらい]

‘湘南ゴールド’の生産においては果皮障害による果実等級の低下が問題となっている。特にさび果は‘湘南ゴールド’の果皮障害の代表的な症状であり、その発症低減が望まれている。当所での過去の試験の結果、さび果の発症は1月以降の日照と、炭疽病菌の果皮への感染が関与していることが分かった。そこで、遮光ネットを用いた樹体全体の1月以降の遮光と、殺菌剤散布によるさび果発症低減を検討する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 1月中旬から収穫までの間、60%遮光ネット（ワイドスクリーンBK1210またはS1210,日本ワイドクロス）で樹全体を被覆することでさび果の発症を低減できる（表1）。
- 2 慣行防除に加え、9月下旬から10月上旬にマンゼブ水和剤を追加で散布することで、60%遮光ネット単体よりもさび果の発症程度はやや低下する（表1）。
- 3 1月中旬から収穫までの間の60%遮光ネットによる被覆は、収穫した果実の糖度と酸度には影響を及ぼさない（表2）。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 60%遮光ネットは従来の防鳥ネットと比較して価格がやや高い。  
参考価格：サンサンネットSL2700 目合0.8mm 2.1m×100m 148円/㎡  
60%遮光ネットBK1210 2m×50m 180円/㎡
- 2 遮光せずに薬剤散布のみでは効果が安定しないため注意を要する。
- 3 マンゼブ水和剤のかんきつ類への使用時期は収穫90日前まで、みかんへの使用時期は収穫30日前までである（2019年5月現在）。収穫時期の早いかんきつ類を栽培している場合には、薬液の飛散に注意する。
- 4 1月中旬から3月上旬までの、60%遮光が樹体に与える長期的な影響については明らかではない。

[ 具体的データ ]

表1 さび果の発症程度

試験年度	処理	発症程度別果数(個)					発症度 <sup>y</sup>	有意性 <sup>z</sup>	発症率 (%)
		0	1	2	3	4			
平成29年度	60%遮光+ マンゼブ水和剤10月散布 <sup>xw</sup>	2,932	183	42	22	3	2.7	b	7.9
	60%遮光 <sup>x</sup>	2,896	182	29	42	6	3.1	b	8.2
平成30年度	対照 無遮光・10月殺菌剤無散布	975	156	47	33	8	7.8	a	20.0
	60%遮光+ マンゼブ水和剤9月散布 <sup>v</sup>	3,923	135	27	14	8	1.6	b	4.5
平成31年度	対照 無遮光・9月殺菌剤無散布	8,293	337	138	128	46	3.3	a	7.3

発症程度別果数は2~3樹に結果した全収穫果の合計値を示す

z: 異符号は同一試験年度においてSteel-Dwass法で1%有意差あり

y: 発症度 =  $\{\sum(\text{発生指数} \times \text{果数}) / (4 \times \text{全果数})\} \times 100$

x: ワイドスクリーンS1210(日本ワイドクロス)で平成30年1月16日に樹全体を被覆した

w: マンゼブ水和剤600倍を平成29年10月2日に散布した

v: マンゼブ水和剤600倍を平成30年9月28日に散布し、

ワイドスクリーンBK1210(日本ワイドクロス)で平成31年1月15日に樹全体を被覆した

表2 平成29年度の試験における遮光の有無と果実品質

処理	調査果数(個) <sup>z</sup>	糖度(Brix%) <sup>y</sup>	酸度(%) <sup>y</sup>
60%遮光 <sup>x</sup>	74	12.4±0.63	1.67±0.15
無遮光	80	12.6±0.77	1.62±0.18
有意差 <sup>w</sup>		n.s.	n.s.

平成30年3月12日に果実を収穫し、同年3月28日に果実品質を調査した

z: 2樹の合計値を示す

y: 総調査果数の平均値を示す

x: ワイドスクリーンS1210(日本ワイドクロス)で平成30年1月16日に樹全体を被覆した

w: n.s.はStudent's t-testで有意差なし

[ 資料名 ] 平成29~30年度試験研究成績書(カンキツ・キウイフルーツ等)

[ 研究課題名 ] ‘湘南ゴールド’の高付加価値化技術の開発

ブランド化を目指した高品質安定生産技術の開発

[ 研究者担当名 ] 二村友彬・中島修・渡辺茂・深澤智恵紗・服部俊一・岡本保